

交錯詩「朝」奥主 榮 鶉飼千代子

鶉飼千代子

奇数行 奥主 榮

偶数行 鶉飼千代子

草むらにもぐりこみ

地平線がゆるむころ

息をひそめた虫たちは

オパールが有明方（ありあけがた）に満ちてくる
光よりもはやく届く

暮れ初（そ）める天使の時間より

湿りけの変化で朝を知る

パステルカラーが白みがちなのは

触覚は小さなことにも

後景のルクスを予告しているから

びくびくとふるえ

朝暉（ちようき）がゆるゆると差し込むと

餌をかむ音さえもが

たなびきは腹を白く発光させ

何か悪いものをおびきよせるかと

横切るように雲の波路を披露する

複眼いっぱいにひろがる朝焼けを

海ではなく空のおはなし

おだやかに見ることができない

夜明けですよ

2010年2月4日

鵜飼千代子